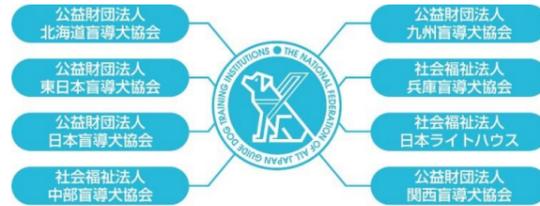


令和4（2022）年度 事業活動報告・活動計算書

（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

認定特定非営利活動法人 全国盲導犬施設連合会

事業活動結果



「ともに生きる、ともに歩む」を共通の理念に、視覚障害者が盲導犬を使用し自立と社会参加を図れるよう、全国の盲導犬訓練法人施設の連合体として、広く盲導犬の普及啓発、相談、盲導犬無償貸与ならびにフォローアップへの助成・補助等を実施した。

1. 普及啓発事業

- 1) 広報誌デュエット32号15万部、ポスター6千枚を作成配布、並びに店舗等の入口に貼っていただく補助犬同伴可ステッカーを無償配布した。
- 2) 視覚障害者向け盲導犬情報（点字版、墨字版、CD版）を2回（9月29号、3月30号）発行し、盲導犬ユーザー、盲導犬育成施設、点字図書館、都道府県視覚障害者担当部局などに配布した。
- 3) 盲導犬ふれあい教室など啓発イベントについては、新型コロナ禍の影響を受け、1件は実施できたが他は延期若しくは中止となった。
- 4) 寄附・募金箱設置協力企業へ、良い機会を捉えて感謝状を贈呈・郵送し、感謝の意を伝えた。
- 5) 連合会オリジナル盲導犬カレンダーを例年通り作成し、寄附者や関係各所へ配布し、盲導犬事業への理解と普及の促進に努めた。
- 6) 大手スーパーに設置している等身大盲導犬募金箱について、5台の新規導入、6台の修理入替を行い、盲導犬事業への協力依頼に努めた。
- 7) DUETサポーター向けの活動報告書DUETサポーター通信VOL.3を300部発行し、サポーター会員及び支援企業へ配布した。
また、DUETサポーター増員に向け、名刺サイズのDUETサポーター紹介カード設置依頼を募金箱設置店に対して行った。



2. 相談室事業

- 1) 盲導犬貸与希望、入店拒否、使用者相談、事業者・市民からの相談など174件の受付対応を行い、加盟施設と協力してすみやかに具体的な解決を図った。
- 2) 盲導犬ユーザーによる犬の不適正使用の目撃クレーム通報について、加盟施設と連携して調査を迅速に行い、その結果を通報者へ回答し、丁寧に説明して、盲導犬事業に対する理解を図った。

3. 資格認定事業

- 盲導犬訓練士5名、盲導犬歩行指導員3名の計8名を、資格認定審査要綱に則り、以下のとおり知識・技能を確認し、資格を認定した。
- ・学科修得確認テストを8月と12月に実施
 - ・資格認定審査要件のスクーリングを8月、2月開催の連合会加盟施設相互研修事業に組み込み実施
 - ・実技審査会を2月に事前収録映像を用いてオンラインにて開催
 - ・実技審査員打ち合わせ会を3月にオンラインにて開催
 - ・資格認定委員会を4月、9月、12月、3月の4回オンラインにて開催
 - ・3月開催の理事会に本年度の資格認定者を付議

4. 研修事業

- 1) 盲導犬訓練士ならびに盲導犬歩行指導員の資格認定審査申込者を対象にしたスクーリングは、加盟施設相互研修の参加を要件とし、さらに歩行指導員に関しては資格認定委員会での事例発表を要件とし実施した。
- 2) 連合会加盟施設相互研修事業を、本年度は計5テーマ開催し、現地開催にて1テーマ「盲導犬パピープログラム」を、オンラインにより4テーマ「対応困難ケース」「クレーム対応」「消防訓練時の犬の避難」「犬舎管理」を実施した。

5. 使用者団体との相互協力事業

全日本盲導犬使用者の会（全犬使会）の総会・交流会は、新型コロナ禍のため実施に伴う協力依頼はなかった。

6. 情報交換及びネットワーク構築事業

- 1) 加盟施設の責任者全員による運営委員会は、新型コロナ禍のため三密を避け、オンラインにより5回開催し、盲導犬の育成訓練と普及、事業に係る諸課題について協議した。

- 2) 盲導犬育成ジャパンセミナーは、新型コロナ禍が続くため開催を中止した。
- 3) 令和3年度（2021）盲導犬訓練施設年次報告書「(社福)日本盲人社会福祉施設協議会編」の印刷と関係部署への発送を行った。
※令和5年3月末日現在、国内の盲導犬実働数は836頭。国内の盲導犬育成訓練指定法人全11団体が令和4年度中に育成した盲導犬の頭数は105頭。内訳は、新しく盲導犬ユーザーのパートナーとなった盲導犬は27頭、2頭目以降の代替犬は78頭。
- 4) ANACargoによる盲導犬割引輸送は、長らく新型コロナ禍での運行情形などから自粛してきたが6月より再開し、協力利用は計8回であった。

7. 財政基盤支援事業

- 1) 加盟施設の貸与中盲導犬全643頭について、犬の健康管理、使用状況確認、ユーザー相談等のフォローアップに必要な費用の一部助成を行った。
- 2) 盲導犬の無償貸与促進を図るため、加盟施設が実施する盲導犬無償貸与にかかる費用の一部助成・補助（1頭200万円）について、希望する視覚障害者に施設をとおして、連合会助成として2頭分、連合会「特定資産積立金」取り崩し補助による盲導犬無償貸与として、4頭分、合わせて6頭分（1200万円）の助成・補助を行った。

8. 調査研究事業

厚生労働省からの依頼により、盲導犬通減理由の一つである「盲導犬を代替しない理由」について、加盟施設からの意見を集約する場を設けた。

9. 国際交流事業

隔年開催の国際盲導犬連盟セミナーについては、新型コロナ禍の影響で開催は見送られた。

10. 顕彰事業

本年度は行わなかった。

活動計算書

（単位：円）

1) 収益の部		金額
大科目	中科目	
受取会費	正会員受取会費	800,000
	計	800,000
受取寄附金	個人寄附金	14,795,459
	団体・法人寄附金	6,206,985
	特別寄附金	11,599,355
	募金	55,418,752
	計	88,020,551
その他収益	受取利息	6,246
	指定正味財産振替額	8,000,000
	計	8,006,246
経常収益計		96,826,797
2) 費用の部		金額
大科目	中科目	
事業費	人件費	24,180,723
	普及啓発事業費	11,357,615
	相談室事業費	510,329
	資格認定事業費	410,198
	研修事業費	843,390
	使用者団体相互協力事業費	10,262
	情報交換・ネットワーク事業費	1,001,854
	財政基盤支援事業費	33,500,000
	調査研究事業費	47,966
	国際交流事業費	0
	顕彰事業費	0
	計	71,862,337
管理費	人件費	3,014,166
	その他管理費	3,543,647
	計	6,557,813
経常費用計		78,420,150
当期経常増減額		18,406,647